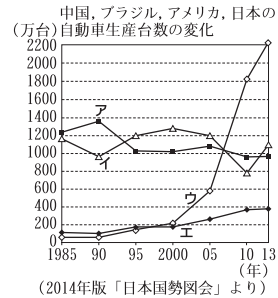


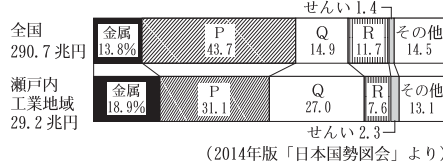
4 | 工業

□(1) 次の文は、中華人民共和国(中国)の自動車生産台数の変化を説明したものです。この変化を示すものを右のグラフ中のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

中華人民共和国の自動車生産台数は、1990年ごろから増加しはじめ、2013年には2005年の3倍以上になっています。



□(2) 右のグラフは、全国と瀬戸内工業地域の工業出荷額の総額と内訳を表している。グラフ中のP、Q、Rにあてはまる組み合わせとして最も適当なものを、

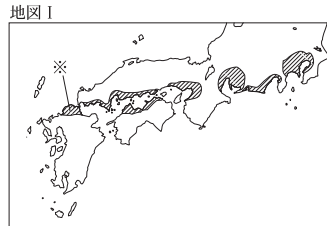


- 次から1つ選び、記号で答えなさい。
- ア P=機械 Q=化学 R=食料品
 イ P=機械 Q=食料品 R=化学
 ウ P=化学 Q=機械 R=食料品
 エ P=化学 Q=食料品 R=機械

□(3) 右の略地図Ⅰ・Ⅱと表を見て、次の問いに答えなさい。

□① 地図Ⅰ中の斜線で示した地域を中心として、沿岸部に連続して立地している臨海工業地域は何とよばれていますか。6字で答えなさい。

また、表中のA～Dの工業地帯(工業地域)のうち、地図Ⅰ中に※で示した工業地帯(工業地域)にあてはまるものを1つ選び、記号で答えなさい。



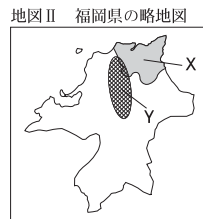
おもな工業地帯(工業地域)の工業製品出荷額(単位 十億円)

おもな工業地帯(工業地域)	工業製品出荷額	
	1980年	2012年
A	25102	50370
B	37613	25956
C	30263	30660
D	5834	8378
全国	214700	290696

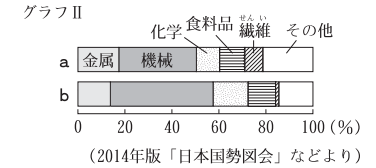
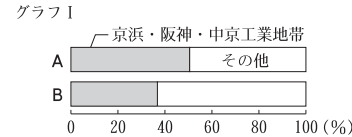
(2014年版「日本国勢図会」より)

Yの地では古くから(a)が採掘され、これを背景としてXの都市の工業が発達しました。Xの都市では、1901年に官営の工場である(b)がつけられました。

- ア a=石炭 b=八幡製鉄所 イ a=鉄鉱石 b=八幡製鉄所
 ウ a=石炭 b=富岡製糸場 エ a=鉄鉱石 b=富岡製糸場

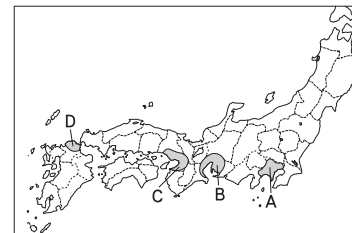


□(4) 次のグラフⅠのA、Bは、1970年と2012年のいずれかの、全国の工業製品出荷額における、京浜工業地帯、阪神工業地帯、中京工業地帯の三つの工業地帯がしめる割合を示しています。また、グラフⅡのa、bは、1970年と2012年のいずれかの、全国の工業製品出荷額の産業別の割合を示しています。あとのア～エのうち、それぞれ2012年を示すものの組み合わせとして最も適当なものを1つ選び、記号で答えなさい。



- ア Aとa イ Aとb ウ Bとa エ Bとb

□(5) 次のア～エのグラフは、それぞれ略地図中のA～Dの工業地帯や工業地域のいずれかの工業製品出荷額とその工業別割合を表したものです。Bの工業地帯にあてはまるものを1つ選び、記号で答えなさい。



	金属 8.9%	機械 46.9	化学 18.5	食料品 10.2	その他 15.5
ア 26兆円					
イ 8兆円	16.3%	41.5	6.6	19.2	16.4
ウ 31兆円	20.5%	36.2	18.1	10.7	14.5
エ 50兆円	10.4%	65.8	7.5	11.3	5.0

(2014年版「日本国勢図会」より)

□(6) 次のグラフは、群馬県、千葉県、長野県、富山県、福井県、和歌山県における産業別製造品出荷額等の割合を示しています。これらのグラフから読み取れることとして最も適当なものをあとから1つ選び、記号で答えなさい。

県	食品・飲料					その他
	食料品	化学	業務用機械	飲料	飼料	
群馬	輸送用機械 31.9%	8.2	6.8	6.3	6.2	40.6
千葉	化学 22.5%	石油・石炭製品 19.8	鉄鋼 14.5	11.2	4.3	27.7
長野	情報通信機械 19.1%	電子部品 15.3	8.6	8.2	6.7	42.1
富山	化学 14.8%	11.4	10.9	10.8	10.0	42.1
福井	電子部品 18.0%	化学 16.3	繊維 14.2	7.8	5.9	37.8
和歌山	鉄鋼 28.4%	石油・石炭製品 26.2	10.9	6.8	4.6	23.1

(2014年版「県勢」より)

- ア 内陸に位置している県では、いずれの県も上位5位までに石油製品が入っている。
 イ 太平洋に面している県では、いずれの県も上位5位までに情報通信が入っている。
 ウ 海に面している県では、いずれの県も上位5位までに化学が入っている。
 エ 日本海に面している県では、いずれの県も上位5位までに金属製品が入っている。